

Japanese Laid-Open Utility Model Publication No. 6-66367

Laid-Open Date: September 20, 1994

Japanese Utility Model Application No. 5-14019

Filing Date : March 1, 1993

Inventor: Shuhei Ito

Applicant: KABUSHIKI KAISHA TOKUYASU



## BRUSH

### [Claim 1]

A brush 10 having a bristle body 13 wound with fine fibers 14 covered with a knitted fabric made of the fine fibers.

### [Effect of the Invention]

In the brush 10, fine fibers 14 wind around the bristle body 13 of the brush 10 thereby forming small projections and depressions on the surface of a bristle 12.

According to this constitution, fine dirt or dust attached on the skin and hair can surely be removed by means of the projections and depressions only by combing the hair.

In addition, if brushing is performed with the brush 10 in which fibers are impregnated with liquid agents such as hair treatment or perm liquid, the liquid agents can efficiently be applied to the hair.

RECEIVED  
JUL 20 2000  
TC 1700 MAIL ROOM

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平6-66367

(43)公開日 平成 6 年(1994) 9 月20日

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>

A 4 6 B 15/00

A 4 6 D 1/00

識別記号

Z

庁内整理番号

2119-3B

2119-3B

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 1 F D (全 2 頁)

(21)出願番号 実願平5-14019

(22)出願日 平成 5 年(1993) 3 月 1 日

(71)出願人 591024904

株式会社徳安

愛知県名古屋市中区栄 3 丁目23番32号

(72)考案者 伊藤 修平

名古屋市中区栄三丁目23番32号 株式会社

徳安内

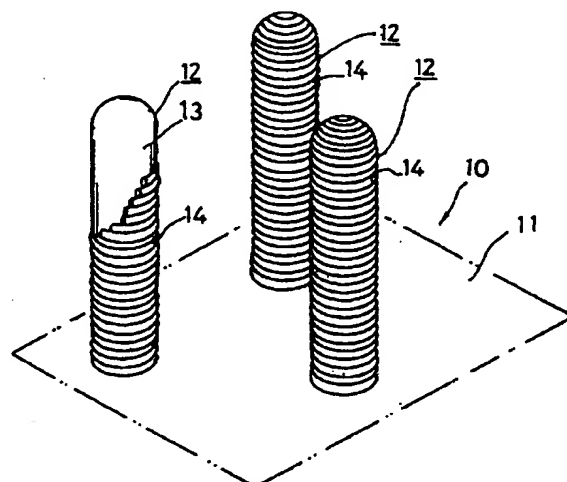
(74)代理人 弁理士 後藤 憲秋 (外 1 名)

(54)【考案の名称】 ブラシ

(57)【要約】

【目的】 髪の毛の細かな汚れを確実に取ることができ、またトリートメントやパーマ液などの薬液を効率よく頭髮に塗布することのできる新規なブラシを提供する。

【構成】 ブラシ本体 1 3 に微細な繊維 1 4 を巻着または編組によって被覆してなることを特徴とするブラシ 1 0。



1

2

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 ピン本体に微細な繊維を巻着または編組によって被覆してなることを特徴とするブラシ。

【図面の簡単な説明】

【図1】 この考案のブラシの一例を示す平面図である。

【図2】 その要部を切り欠いた拡大斜視図である。 \*

\* 【符号の説明】

10 ブラシ

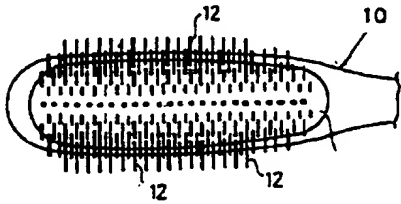
11 基部

12 ピン

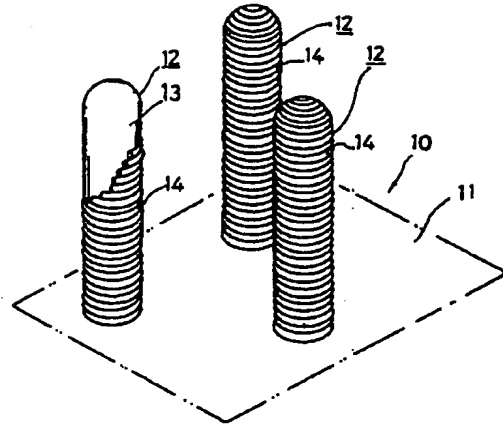
13 ピン本体

14 繊維

【図1】



【図2】



## 【考案の詳細な説明】

【0001】

## 【産業上の利用分野】

この考案はブラシに関する。

【0002】

## 【従来技術】

一般的なヘアブラシとしては、木製または樹脂製のハンドル部に豚毛や馬毛などの天然毛や樹脂製の毛状体を植え込んだものが知られている。

【0003】

頭髮に付着した汚れやゴミは、このようなブラシ類を用いて頭髮を梳くことによって幾らかは除去されるのであるが、さらに細かな汚れまで確実に除去することのできるブラシが望まれている。

【0004】

ところで、パーマ液やトリートメントなどの薬液は、その効果を高めるために直接頭部に振りかけられ、手やブラシなどで頭髮および頭皮にすりこまれる。

【0005】

しかしながら、この方法では、側頭部や生え際などから当該薬液が垂れ落ちることがあって付けにくい。また、手ですりこむ場合には、薬液が手に付着して汚れるという問題があり、ブラッシングするだけでこの種の薬液を頭髮に効果的に付着せしめることができるブラシがあれば便利である。

【0006】

## 【考案が解決しようとする課題】

この考案は、このような状況に鑑み提案されたものであって、髪の毛の細かな汚れまで確実に取ることができ、またトリートメントやパーマ液などの薬液を効率よく頭髮に塗布することのできる新規なブラシを提供しようとするものである。

【0007】

## 【課題を解決するための手段】

すなわち、この考案は、ピン本体に微細な繊維を巻着または編組によって被覆してなることを特徴とするブラシに係る。

## 【0008】

## 【実施例】

以下添付の図面に従ってこの考案を詳細に説明する。

図1はこの考案のブラシの一例を示す平面図、図2はその要部を切り欠いた拡大斜視図である。

## 【0009】

図1および図2に示されるように、この考案によるブラシ10は基部11と該基部11に設けられたピン12とからなる。

基部11は木あるいはプラスチックなどによって形成され、適宜形状のハンドル部（図示せず）を備えている。

## 【0010】

ピン12は、木あるいはプラスチックまたは針金を適宜のピン形状に形成してなるピン本体13に微細な繊維14が巻着または編組によって被覆されてなるもので、前記基部11に多数本が設けられている。

## 【0011】

この繊維14の被覆によって、ピン本体の外面に微細な凹凸が形成され、ブラシ10によって髪を梳いた時に、その凸凹によって付着した汚れやゴミを効果的に除去することができる。

また、この繊維14には、パーマ液やトリートメントなどの薬液を含浸させることができる。

## 【0012】

繊維14に用いられる材質としては、綿、絹、ナイロン、アクリルなど適宜のものが用いられ、公知の手段によって、前記ピン本体13の外周面に極細のフィラメントが複数本（たとえば8本）巻着または編組される。その際、必要により接着材が用いられる。

## 【0013】

前記繊維14はピン本体13外周全体に被覆するように形成されればよく、前記ピン本体13の外周面に巻着または編組されるほか、長尺のピン本体に繊維を被覆した後、所定の長さに切断して用いてもよい。その際、切断面は必要により

熱または超音波等で溶着してもよい。また、先端に球状物を接着してもよい。

【0014】

先に述べたように、このブラシ10は、頭髮を梳いた際に、前記頭髮がピン本体13に巻着された微細な繊維14の間を通り、その繊維の凸凹によって頭髮に付着した汚れやゴミを確実に梳き取ることができる。

【0015】

また、パーマ液やトリートメントのための薬液を頭髮に付着させる際には、このブラシ10に薬液を付けて髪をブラッシングするか、あるいは直接頭髮に付けてからブラッシングする。

それによって、前記薬液が繊維14に含浸するとともに、ブラッシングによって前記含浸した薬液が徐々にかつまんべんなく頭髮に付着するので、手などを汚さず効率よく作業することができる。

【0016】

【考案の効果】

以上図示し説明したように、この考案のブラシによれば、ブラシのピン本体に微細な繊維が巻着されているので、ピンの外側に微細な凸凹が形成される。

そのため、ブラッシングするだけで、頭髮に付着した細かな汚れやゴミが前記凹凸によって確実に梳き取られる。

また、トリートメントやパーマ液などの薬液を繊維に含浸させてブラッシングすることにより、前記薬液を効率よく頭髮に塗布することができる。